

ヨハネの黙示録 第21章 1節

「また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。」

南の海上に発生した台風の情報が増の後半から続いていた。やがて列島の一部を風雨が覆い始め、その様子が島々や海岸線の荒れ模様で放映するテレビ画面が慌ただしくなる。一か所でも、ひとりでも少なく台風被害に遭わないようにとの願いからである。災害が起こってしまったからでは取返しが見つからない。

メディアの警告のせい、あまり大きな被害もなく台風は東北海上に吹き抜けていったようである。情報を受けた者たちがどれだけ想像力を働かせ地域を、身を守るかが問われる。風が過ぎた後には、乾いた秋風が吹き始める。稲穂をさざ波のように揺らしながら風が通り抜ける。都会の片隅にいても想像力を働かせると、この風は収穫の秋を迎える風となり心を豊かにする。

新しい天と新しい地とを見る。これを書き残した者は見た。想像力を働かせたわけではない。見たのである。その見た者のことばを聞き、信じる者も見る。時空を超えて見る事が可能な、こころの目で見ると、信仰の目で見ると、想像力を越えて、約束の真実を見る。